

シマセンニュウ

Locustella ochotensis

ウグイス科・夏鳥



シマセンニュウ

名前の由来

シマは島で、北海道のこと。センニュウは仙遊（せんゆう）から変化したと考えられている。“潜入”から来ているとする説もある。漢字名：島仙入

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(葦原・樹林) ウシタカ

特定種

該当なし

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）15.5cm。スズメより少し大きく、ウグイスほどの大きさ。

ウグイスに似たオリーブ褐色で、下面が淡い。淡色の眉斑（眉の様なもよう）がある。

尾は先が丸く、先端が灰白色。

声：枯れ茎にとまって「チリリリチャカチャカ」「チッチッ、チュルルル」などと早口にさえずる。草むらの中から上方に短く舞い上がってさえずることもある。夜も鳴く。地鳴き（さえずりではない普段の声）は「チアチアチ」あるいは「ジェジェエ」というような声だという。

飛び方：さえずる際、草地から5～10mの高さまで急角度で上昇し、翼を開いたままで滑空しながらさえずることがある。

類似種と区別点：ウグイス、エゾセンニュウ、マキノセンニュウ、コヨシキリ。

ウグイスは下面があまり淡くない。

コヨシキリは白い眉斑の上に黒っぽい線がある。

それぞれ互いによく似ているが、さえずりで区別できる。

ウグイスのさえずりは有名な「ホーホケキョ」。

エゾセンニュウは「トッピンカケタカ」とけたたましく鳴く。

マキノセンニュウは「チリリリリ」と聞かれる高い細かな声でさえずる。

コヨシキリは「カカチ、チリリ、キョッキョット」「ジョッピリリ、ジョッピリリ、ギョッキョキリキリ、チリリ」などと金属的で高い細かな声で連続的にさえずる。



シマセンニュウ



ウグイス。眉斑があまり目立たない。水平に枝にとまる



コヨシキリ。白い眉斑の上に黒っぽい線

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期						繁殖						
フィリピンなど (越冬期)	越冬期									越冬期		

生息環境・分布

平地の草原。北海道では海岸の草原や川下流部に生息し、内陸に少ない。十勝では夏鳥。

分布：オホーツク海、日本海、太平洋の沿岸で繁殖する。フィリピンやボルネオ島、セレベス島などに渡って越冬する。

日本では主に北海道に夏鳥として飛来。

北海道には5月下旬～6月上旬に渡来し、沿岸で繁殖。道東と道北に比較的多い。

十勝には、6月上旬に渡来。十勝川など、河川の河口部を中心に分布。

食性・他生物との関わり

ムカデ、ヤスデ、ワラジムシなどやバッタ、アブラムシ、カメムシ、キリギリスなどの昆虫といった、地上にいる虫を食べる。

草から草へと敏捷に移動しながら餌を捕らえる。捕食者は猛禽類など。

繁殖生態

繁殖期は6～8月、一夫一妻で繁殖する。オスはメスより1～9日早く渡来し、枯れ草などにとまったり、舞い上がったりしながらさえぎってなわばりを宣伝する。(→興味深い話の項参照)

草原の地上や低い草本の枝の上に、イネ科の葉や茎を材料にして深いお椀型の巣を作る。巣作りはオスメス共同で行うという。交尾は巣作りの時期に見られるという。(→興味深い話の項参照)

2～5個くらい産卵し、メスだけが卵を抱く。オスはこの間なわばり内でさえぎったり採餌したりする。

最後の産卵から13～14日でヒナがかえり、オスメス共同でヒナを育てる。

11～14日でヒナは巣立つが、ヒナは巣立ち後も飛ばず、さらに10～14日は親から給餌されるという。



さえぎるシマセンニュウ。舞い上がってさえぎることもある

興味深い話

- 標識調査で、7年の生存が確認されている。
- 潜入という字をあてたほうがふさわしいと思えるほど、草むらに潜って姿を見せないが、オスは草の上に出てきてさえぎることもある。
- さえぎる際、草の茎にとまってさえぎる他に、草地から5～10mの高さまで急角度で上昇し、翼を開いたままで滑空しながらさえぎってなわばりを宣伝する。この「飛行さえぎり(さえぎり飛翔)」は繁殖期を通じて見ることができる。

- 1,800㎡ほどのなわばりを守るという。
- 交尾直前には翼を半開きにして垂らし、一定のリズムで上下に動かす、という行動が見られるという。この行動は、つがい作りの時やなわばり争いの時にも見られるという。
- オスメスともに毎年同じ場所にやってくる。ただオスはほぼ同じ場所になわばりを作るがメスは同じ場所に定着しないので、毎年つがいの相手は変わるという。

配慮事項

藪のある海岸草原が大事。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000
「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994増補版7刷)

「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993
「鳥類観測ステーション報告」(財)山階鳥類研究所、1996
「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997
「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987
中田千佳夫 (1976) シマセンニュウ *Locustella ochotensis ochotensis* (Middendorff) の繁殖生物学的研究。I. 繁殖の概要と繁殖期にみられる歌、行動、整理生態、17(1.2) : 237-246.

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ